教科等研究会　中学校技術・家庭（家庭分野）平成２９年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

「学びを生かし、明日の生活を創り出す技術・家庭科教育」
～生活での気づき・発見が、喜びに変わる「分かる・できる」授業づくりを目指して～

２　研究経過

第１回			第２回			第３回			第４回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所・授業者	期日	人数	場所・授業者	期日	人数	場所
6/6	８人	益城中	11/14	８人	清和中・権東秀昭教諭	12/1	８人	木山中・農山幸雄教諭（小中合同）	2/2	６人	益城中

３　研究の概要

(1)　研究の内容

①　授業力向上を目的とした研究授業の実施

本会では全員が免許外指導者という状況であり、各学校における指導の充実を図るためには何が必要だろうかということを考え、まず各担当者が疑問に思っていることや困っていることを事前に調査した。そして、今年度も昨年度に引き続き、授業を通して子どもたちに家庭分野の授業の重要性を感じさせたいと考えた。また、生活に生かせる力を養うために指導者の授業力の向上が一番重要であると考え、２回の研究授業を行うこととした。なお、そのうちの１回は、小学校家庭科部会と合同で授業研究会を行った。このことにより小学校の実践から学び、中学校の授業実践の更なる充実を図った。

ア　第１回研究授業（１１月１４日　場所：清和中学校）

内容Ｃ「衣生活・住生活と自立」における「分かる・できる」授業の提案

授業者：清和中学校　権東　秀昭教諭

写真１　ＧＴを活用した作業内容の説明

写真２　夢中になって製作をする生徒たち

(ｱ)　自評及び意見・感想

○郡の研究テーマである「分かる・できる」を実感できる教材の精選に力を入れた。手縫いやミシンをさせてみると、上手に扱える生徒が多かった。そのため、発展的なものとして編みものに取り組むことにした。編みものは自分でやった分だけ、努力の成果が形となって現れるので達成感を感じさせるという点でとてもよかった。

○子どもたちに指編みのやり方を提示する際に、教師一人だけでは難しかったが、教頭先生にＧＴとして指編みのやり方をやってもらっていたのがとてもわかりやすかった（写真１）。

○アクリルたわしを作る実践は、教科書においても扱われているし、環境保全の面からとても効果的であった。子どもたちもとても意欲的に製作をしていて（写真２）、作ったものが実際に家庭で活用できる点もとても参考になった。ぜひ実践してみたい。

○宿題として自分が製作したアクリルたわしを家庭で使ってみた感想を求めていたところが素晴らしかった。技術・家庭科は学んだことを生活に生かすことが大切な

教科である。家庭での使用、更に保護者への教科の重要性の啓発など、とても大切なことをきちんとしていたことがとてもよかった。

イ　第２回研究授業（１２月１日　場所：木山中学校）

内容Ｃ「衣生活・住生活と自立」における「分かる・できる」授業の提案

授業者：木山中学校　農山　幸雄教諭

写真３　ペアで互いに着付けをする生徒たち

写真４　和服の素晴らしさを語るＧＴ

(ｱ)　自評及び意見・感想

○本時では和服の素晴らしさを教科書だけでなく、実際に着てみることで体験的に感じられるようにした（写真３）。本時を通して、楽しみながら和服の良さに気づき、実際に着てみたいと思わせることをねらった。

○着付けの指導を難しく感じたため、今回はＧＴを呼び、一般的な着付けの方法を指導してもらった（写真４）。また、着付け方が男女で違い、数種類の着方があるので、その点についてもＧＴから詳しく話をしてもらった。

○教科書で学ぶだけでなく実際に和服を着てみることで、楽しみながら和服に触れて、学びを深めることができていたと思う。ただ、授業のねらいである和服の良さにたどり着けたかについては疑問が残った。

○子どもたちにとって和服は日常生活と離れていると感じた。そのため旅館の浴衣など自分が今後着るかもしれないという可能性や必要性を考えさせるともっとよかったと思う。

○小学校では、和服について社会科で触れるくらいで家庭科では扱わない。教科書で習うだけでなく、実際に着ることができる環境がとてもうらやましい。このような授業は、子どもたちにとってずっと心に残ると思う。

② 新学習指導要領の研修

平成３３年度からの新学習指導要領の全面実施に向けて、夏季実技研修において新学習指導要領についての研修を行う予定であったが、台風接近のために研修を行うことができなかった。そのため、第４回研修にて行い、益城中の甲斐講師に復講をして頂いた。研修では、今回の改訂の概要（目指す資質・能力、内容構成、指導計画と内容の取扱い、評価など）について共通理解を図った。

(2)　成果と課題（○：成果　●：課題）

① 授業力向上を目的とした研究授業の実施

○２回の授業研究会を通してお互いの実践を深めることができた。また、先生方が授業を行う上での悩みや工夫点についても情報を交換することができ、大変有意義であった。

○小学校との合同の授業研究会では、小学校家庭科の視点から意見交換ができた。特にコミュニティスクールにおける地域人材の活用について小学校の実践がとても参考になった。

○２回の授業とも子どもたちに「分かった・できた」を感じてもらえるような工夫（体験的な学習活動など）がされていたことがとてもよかった。その内容の興味・関心が高まるだけでなく、家庭分野そのものの興味・関心が高まることにもつながっていると思う。

○免許外の指導者で構成されている部会のため、自分自身の授業実践で大丈夫なのかが不安である。お互いに授業を見合う中で意見を交換し、学んだことを自分の実践に生かすことができていることが最大の成果である。

●作業の手順を示す際は、師範で教師がやってみせることも大切だが、動画配信サイトなどで公開されている既存の動画の提示、デジタル教科書の活用なども有効である。今後はそういった

ものを活用した研究授業を行ってほしい。

●実習などの研究授業は多く行えているが、各内容の最後で取り扱うべき環境とのかかわりの授業をどうしているか知りたい。来年度はその研修を深めていきたい。

② 新学習指導要領の研修

○自分の免許教科の新学習指導要領については研修をする機会はあるが、免許外教科の研修までは行う機会が少ない。今回の研修で、新学習指導要領の改訂の概要についてしっかりと研修することができた。特に、目指す資質・能力、評価についてよくわかった。

●来年度以降、新学習指導要領に基づいた実践事例が先進校で行われる。今後の研修で取り上げていってもらいたい。

4　実践事例

(1)　学習指導案（清和中　権東教諭）

第３学年１組　技術家庭科（家庭分野）学習指導案

日時　平成 29 年 11 月 14 日（火）第 5 校時
場所　清和中　被服室　指導者　教諭　権東秀昭

1　単元名　C「衣生活・住生活と自立」（　布を用いた物の製作　）

2　本時の学習

（1）本時の目標　指を使って楽しくアクリルたわしを編むことができる。（生活の技能）

（2）本時の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 つかむ	10分	1　前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を知る。 2　指編みで作るアクリルたわしの編み方を知る。	○家庭でできる排水対策として、洗剤を使わず、環境に優しい洗い方について知らせる。 〈アクリル毛糸で作るたわし〉 ○実演した基本的な編み方を説明し、完成した作品をイメージさせる。	製作プリント
展開 確かめる	25分	（めあて）アクリル毛糸を使って、手で編むことができる 3　ペアで協力し、指編みで作るアクリルたわしを製作する。 （約３０ｃｍの長さまで編む） 4　自己評価する。 5　感想を発表する。	○ペアで協力しながら、意欲的に製作できるような場を設定し、互いを認め・励まし・助け合うような雰囲気づくりを伝える。 ☆机間巡視しながら、適宜アドバイスを入れていく。 ○「やってみてどうだったか」自分の成果と課題を自己評価させ、つくる楽しさを自由に評価カードに記入させる。 ○頑張ったことやできた喜び・作った楽しさを発表しながら、手で編める楽しさを実感させる。 「生活の技能」　B基準 アクリル毛糸を使って、環境に優しい手編みのたわしを編むことができる。 〈B 基準に達しない生徒への手立て〉 ・支え合う雰囲気を大切にし、随時声かけを行いながら、編むことができるように支援する。	アクリル毛糸 評価カード
深める	10分	6　カギ編みの基礎を確認する。	○くさり編みと細編みの基本的な編み方を習得させる。 ☆編み方を実演しながら、わかりやすく編み方を提示し、全員ができているのか確かめながら作業を進めていく。	カギ針 毛糸 製作図
まとめ	5分	7　次時の予告をする。	○毛糸で作るコースターの完成に向け、できた喜ぶを抱かせながら作業を進めていくことを伝える。	

評価基準Ａ：アクリル毛糸の材質を生かしながら、手際よく環境に優しい手編みのたわしをあむことができる。

(2)　学習指導案（木山中　農山教諭）

第２学年１組　技術家庭科（家庭分野）学習指導案

日時　平成 29 年 12 月 1 日（金）第 5 校時
場所　木山中　家庭科室　指導者　教諭　農山幸雄

1　単元名　C「衣生活・住生活と自立」(　衣服の構成　)

2　本時の学習

（1）本時の目標

○和服と洋服の構成のちがいや和服の着方について理解する。

（2）本時の展開

過程	学習活動	主な発問（○） 予想される生徒の反応 （・）	教師の指導・支援・評価	備考
導入（10）	1　日本の民族衣装「和服」について考える。	○世界にはどのような民族衣装があるか。 ○どのような時に和服を着るのか。	・世界には色々な民族衣装があることを考え、日本には和服があることを確認する。	TV 画像
展開（75）	2　本時の学習内容を確認する。 （めあて）　和服の着方について知り、着てみよう。			
	3　和服と洋服の構成のちがいについて考える	○和服と洋服の構成のちがいはなにか。	・洋服は立体構成、和服は平面構成であることに気付かせる。	GT
	4　男女にわかれ浴衣の着方を知る。 「言語活動設定の意図」 二人で意見交換をすることで、課題を解決しようとする意欲を持たせる。	・わからないところはできるだけ二人で解決させる。二人で解決できない場合は、ＧＴや支援の先生に支援を頼む。	・男女に分かれ、GTから着方やポイントについて着付けを行いながら説明してもらう。 ・一人目が着用できたら二人で協力して二人目に着用させる。	浴衣
		○評価【知・理】 ・A基準：二人で意見交換をしながら浴衣を着用できた。 ・B基準：浴衣を着用できた。 ≪B基準に達しない生徒への手立て：わからないところを個別に指導を行う。≫		
	5　着用して気づいた和服の良さを発表する。		・和服の無駄のないつくりや、リユース・リメイクのしやすさにも触れる。	作品
まとめ（15）	6　本時の学習を振り返る。		・自己評価と感想を記入させる。	プリント